

二〇二六年四月四日（参加者一七名）

うらけし好みのカップ選るカフェ  
春宵や一人使ひの風呂落とす  
仕事終へ口に紅さす春の宵  
春宵の小路の人出 声親し  
浜うらら貝殻探す親子連れ  
春宵が震禍の町を包みけり  
間遠より届く汽笛や沖麗ら  
春宵やカンテラ点るテラス席  
春宵や古都の路地より三味の音  
山裾の暮れ残りたる春の宵  
薄墨ににじむ山影春の宵  
虹色に点る大橋春の宵  
麗かやと見かう見せる風見鶏  
ガス灯の滲む川面や春の宵  
春宵の花見小路の茶屋灯り  
春宵や猪口一口の食前酒

なつき  
よし女  
孤古老獺  
むべ  
こすもす  
花茗荷  
澄子  
むべ  
博充  
あきこ  
あきこ  
わかば  
わかば  
わかば  
康子  
きりん  
よし女

若鮎句会・みのもる選・二〇二六年四月一二日